ゴビウスニュースレター

ISSN 1349－1709

しまねっ湖

ツチガエル　*Glandirana rugosa*

CONTENTS

特集・夏の特別展……2～3
ゴビウスのなかまたち……4
しまねの水辺紀行／シャッターチャンス！……5
環境修復の取り組み……6
こらまたなんだら！／表紙の生きもの……7
観察会報告／インフォメーション……8

No. 65
2019. Summer

島根県立宍道湖自然館ゴビウス 第42回特別展

き けん せい ぶつ てん

危険生物展

～知らんとやばぁい、おぞげな生きもんたち～

開催期間 2019年7月10日(水)～9月23日(月)

今回は、島根の身近な自然で出会うかもしれない危険生物をテーマに開催します。刺される、咬まれる、有毒など、夏休み中に野外へ出かける前に知っておきたい危険な生きものたちを展示し、その特徴やもしものときの対処方法などを解説します。また、島根でもこれから見つかるかもしれない危険な生きものも紹介します。

「おぞげ」とは、ゴビウスのある出雲地方で「おそろしいこと、こわいこと」を意味します。会話中、「おぞっ！」や「おっぞ～～！」などと使います。

あなたのそばにもいる!しまねの危険生物

さあ、もうすぐ夏休み！生きものが活発に活動する季節の到来です。海や川での水遊び、山や原っぱでの虫採りなどなど、楽しいことがいっぱいです。でも、ちょっとまって！うっかり触ると危険な生きものがいることを、ご存じですか？赤や黄色のような派手な体の色をしている生きものは、毒をもっていることが多いです。また、その生きものの体にトゲがあったりすると要注意！不用意に触るとトゲが刺さってしまいます。さらにトゲには毒を注入するしくみがある場合も！刺された痛みに、毒による痛みがプラスされ、激痛になることも！危険な生きものたちが持つ危険な部位も紹介します。

ミノカサゴ 超派手！美しいものには・・・。

アイゴ 海釣りのエサ取りさん。釣ったときは素手で触らないで！

ヒョウモンダコ 黄色の体に浮かびあがる毒々しい青色のリング！

オオスズメバチ 毒針は国内最強!?

ん?なんで危険?意外な危険生物

一見すると危険とは感じない生きものでも、取り扱いを誤ると危険な生きものもたくさんいます。一例を挙げて紹介します。ウナギは、魚介類のなかでもポピュラーな食材のひとつです。2019年の土用の丑の日は7月27日（土）で、この日は食卓にウナギが並ぶ家庭も多いでしょう。しかし、その血には毒成分が含まれていて、うっかり飲んでしまうと下痢や嘔吐、皮膚の発疹などの症状が現れたり、最悪の場合は呼吸困難となり死亡することもあります。しかし、ご安心ください。ウナギの血はかなり飲まないと死ぬことはないようです。この毒はタンパク質でできていて、加熱することで無毒化されます。ですから、ウナギの蒲焼という調理方法には、単においしくするだけではなく、毒をなくすという工夫もかくされていることになります。ウナギのお刺身が一般的ではない理由は、この血を完全に取り除くことがとても難しく、手間がかかるからのようです。

それほど危険では無い！と信じていた生きものが、かくし持っている危険を紹介します。

ニホンウナギ おなじみの高級食材！しっかり加熱してね！

きっとくる?いつかくる?島根でも見つかるかもしれない危険生物

高速道路や鉄道、飛行機、船など人や物の移動手段はさまざまで、より快適に、より速くなりつつあります。その移動に紛れて、危険な生きものが、本来生息していない国や地域に運ばれてしまうことがあります。また、近年の夏の高気温や海面水温の上昇、それに伴う気流や海流の変化により、本来なら遠く離れた地域に生息する生きものが日本各地で確認されることも増えてきました。また、ペットが逃げ出したり、捨てられたりしたことによって、野外で発見されることもあります。ペットの中には、取り扱いが危険な種類もいるので、予期せずばったり出会うと危険な場合もあります。

まだ島根では発見の報告が無い、あるいはあっても少ないけれど、他県のようにいつかごく普通に見つかるようになるかもしれない生きものについても紹介します。

ワニガメ 咬む力はとても強力。ペットは最後まで飼育して！

（中野浩史）

特別展展示ガイドブック

「しまねの夏のおぞげな生きもん図鑑」

5,000部限定！

※特別展会場にて配布、なくなり次第終了させていただきます。

おぞげな生きもんカード

来館時に受付にてプレゼント！

じゃんけんマークで対戦できるよ！
家族やお友だちとあそぼう！
※カードはひとり1日1枚です。
なくなり次第終了いたします。

全部で6種類！

期間限定！7/10-8/25

おぞげな生きもん 謎ときクイズ

謎ときシートに書かれたヒントをたよりにクイズにちょうせん!!

期間限定！8/11-8/18 レクチャールーム

真夏のドキドキ！キッズコーナー

特別展の生きものでマグネット魚釣り!!

ゴビウスのなかまたち

汽水のなかま イソギンポ

イソギンポという魚をご存じでしょうか？おもに岩礁域の岩や貝殻のすきまにくらす10センチほどの魚です。水族館ではあまり目立つ存在ではないため、なかなかスポットを浴びることがありません。しかし、愛嬌のある顔やユニークな動きのイソギンポは、ぜひ、写真や動画におさめてもらいたいオススメの生きものです。

イソギンポ

水槽の中では比較的活発に動きまわり、好きな場所を決めると岩や貝殻のすき間にもぐりこみ、ひょっこり顔をのぞかせて、こちらの様子をうかがっています。水槽前に人が立てば好奇心旺盛なため、体の大きなイソギンポは愛想良く近づいてきます。

また、水槽にはたくさんの貝殻が入っているので、暖かくなると卵を産むことがあります。イクメンな魚であるイソギンポのオスは、卵が貝の殻の中に産みつけられるとふ化するまで卵を必死に守り育てます。卵の様子を確認したり、石が入りこめば急いで取り出したりと忙しくしている様子はとても微笑ましい光景です。

殻を掃除中

現在、20匹ほどのイソギンポが水槽に入っており、お互いに良い場所をゲットしようと毎日争っています。体の大きさで勝敗が決まるのかと思いきや意外と小さな体の方が勝つこともあり、見ていて飽きることのない魚です。

（仲波友美）

淡水のなかま 小さなギギ

淡水のなかまたちでは、現在6センチほどの小さなギギを展示しています。ギギは成長すると30センチほどになるナマズのなかまです。身の危険を感じると、胸びれの関節をつかって「ギィギィ」と音を出すことが名前の由来になっています。島根県西部では「セイサク」という地方名でよばれ、身近な魚としても親しまれています。

さて、今回はそんなギギの食事風景を紹介します。展示中のギギはちょうど今が成長期です。大きくなるにはたくさん食べなくてはなりません。普段はゆったりと水槽内を泳いでいますが、エサの時間になると動きが変わります。水槽内にエサの匂いが広がると、小さなギギが一斉に底に口を近づけてエサを探し回ります。岩陰に隠れていたギギも食べそびれないよう急いで出てきます。そしてあっという間に完食してしまいます。「我先に！」と言わんばかりの勢いでエサを探し回る姿は微笑ましく、今しか見ることの出来ない光景だと思っています。

小さなギギが今後どんなふうに成長していくのか楽しみです。たくさん食べて大きく成長していく姿を、みなさんも見守ってあげてください。

（梅原里歩）

普段は石のすきまにかくれている

食後のギギ。もう少し食べたそうな様子。

しまねの水辺紀行 ㊻ 大量のハリセンボン

平成から令和に改元されて初の水辺に出かけてみました。今回、向かったのは10年以上通っている島根半島にある古浦海岸です。この日は初夏を感じさせるような天気で、道端の気温計は23℃もありました。車を30分ほど走らせ現地に到着すると、大型連休中ということもあり、砂浜ではバーベキュー、防波堤では魚釣りを楽しむ家族連れでにぎわっていました。

私はというと、その様子を横目でみながら人影がない静かな海岸の奥を目指します。波も風もほとんどない穏やかな海辺を歩いていると、すぐに額に汗がにじみ、ジリジリと照りつける日差しはもう真夏を感じさせるほどです。

海岸を歩くときはいつも目線をさげ、波打ち際に漂着する貝殻や外国から流れ着いたゴミなどを観察します。漁業用の大きなブイや流木をみつけると、その下に何か生きものが隠れていないかひっくり返してみるのも楽しみのひとつです。

この日、漂着物のなかで一際目に付いたのが、干からびた大量のハリセンボンでした。10秒でどれくらい集められるかやってみると、30匹近く拾い集めることができました。数年前にもこの場所で冬の寒さで衰弱し、打ち上げられたものをみたことがありますが、一度にこんなにたくさんのハリセンボンをみたのは初めてです。今年の2月末、出雲市沖の定置網に大量のハリセンボンがかかり話題になったことを思い出し、おそらくそのときのハリセンボンが打ち上げられたのではないかと想像しました。

特に目的を持たずに訪れた初夏の海岸でしたが、大量のハリセンボンをはじめ、いろいろな漂着物の観察ができ、充実した時間を過ごすことができました。令和になっても変わらず、いろいろな水辺に足を運びたいと思います。

（桑原友春）

島根半島の海岸

集めた大量のハリセンボン

シャッターチャンス！

産卵用に、元気な二枚貝を入れたので、ミナミアカヒレタビラのオスが集まってきました！

メスを誘うために貝の状態を確認しているようです。初夏に産卵するミナミアカヒレタビラの恋の季節を感じる一場面を収めることが出来ました。

（森永和希）

環境修復の取り組み①

「新設したシラウオ水槽」

ゴビウスでは、開館以来、シラウオの人工繁殖に取り組んできました。2016年度からは、公益財団法人ホシザキグリーン財団の事業のひとつとして、量産技術開発事業を開始し、展示ができる十分な数のシラウオを増やすため、飼育環境やエサの改善などに取り組みました。さらにシラウオを展示するための専用水槽の新設準備を進めました。

そして、2019年1月1日、館内にシラウオ水槽とエサとなるプランクトンを展示する水槽が完成し、一般公開を始めました。今回は、そのシラウオ水槽のひみつを紹介します。

完成したシラウオ水槽（左）およびプランクトン水槽（右）

その１　水槽の大きさ

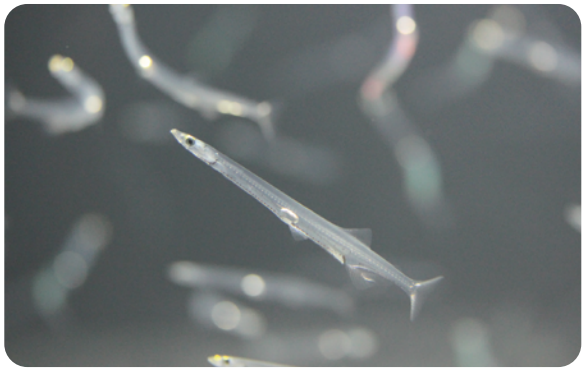
シラウオは驚きやすく、ウロコはオスにわずかにあるだけで、傷つきやすい魚です。これまで狭い水槽で飼育していると、何度もぶつかって傷ついてしまうことがありました。このため、横幅約2.6メートル、水量約2,600リットルと水槽を大きくしました。以前に展示していた水槽と比べると、横幅は約2倍、水量は約7倍に増えています。

その２　飼育に使用している水

これまでのシラウオの飼育では、エサとするプランクトンが生きられるよう塩分を高めに設定していましたが、宍道湖の水でも飼育できることがわかりました。そのため、新しいシラウオ水槽では、ろ過した宍道湖の水を使っています。

その３　展示しているシラウオ

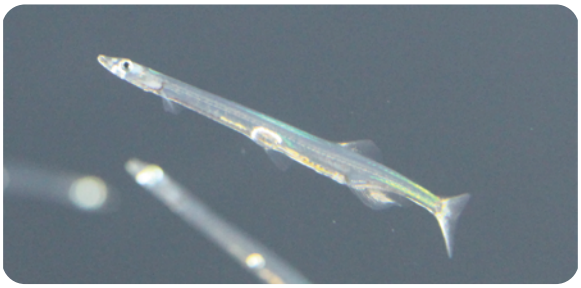
シラウオの寿命はおよそ1年と短く、また、いつでも収集できるわけではありません。さらに、宍道湖ではその年によって獲れる量が変動しています。このため、ゴビウスで繁殖させたシラウオを展示することで年間を通じてお客様にご覧いただけるようにしています。今後、飼育下で生まれた4世代目を展示予定です。



ゴビウス生まれのシラウオ（3 世代目）

その４　シラウオの見え方

シラウオは、生きているときは半透明な姿をしていますが、光のあたり具合で七色に輝いて見えます。新しい水槽では横からも光を当てることによって、キラリと輝いて見えるようになっています。

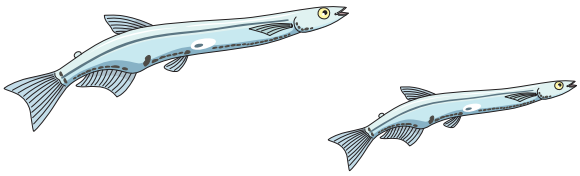


光を受けて輝いて見えるシラウオ

新しい水槽ではシラウオが群れて泳ぎ、その前ではじっくりと観察される方や写真撮影をされる方もおられ、反応は上々です。この展示の背景には、水槽の工夫とともにゴビウスならではの繁殖の取り組みがあります。これからも、安定した展示に向けての取り組みを進めていきたいと思います。

展示を通して、シラウオや宍道湖などの汽水の環境について思いをめぐらせていただければうれしいです。

（田久和剛史）



こらまたなんだら！ 其の十九　サザエのカタチ

シジミが有名なのであまり知られていませんが、実は島根県は、サザエの漁獲量も全国ベスト5の常連です。年間の漁獲量は400トン前後もあり、5～6月の禁漁期以外は、ほぼいつでも鮮魚コーナーに並んでいます。値段も1個100円前後と庶民的なので、気軽に「今日はサザエのつぼ焼きで一杯」が楽しめますし、刺身や煮物、サザエ飯など、料理のバリエーションが豊富なことも魅力です。

ところで、みなさんがイメージするサザエの殻にはトゲがありますか？今から約80年前、ある研究者が全国のサザエの殻のカタチを調べたところ、日本海側でとれるサザエには100％トゲがありましたが、瀬戸内海ではトゲのあるサザエはほとんどみられませんでした。また、太平洋側では場所によってその割合が変わり、例えば高知県の室戸岬では、トゲのあるものとないものが半々だったそうです。

サザエのトゲは、すんでいる環境によって発達するかしないかが決まります。特に、潮の満ち引きや、波の強さが関係していて、波が荒い場所では流されることを防ぐためトゲが発達し、穏やかな場所ではトゲが発達しない傾向にあります。ただし時々、例外もみられるため、近年は環境だけでなく、遺伝的な要素も関係すると言われています。ちなみに、私がイメージするサザエにはトゲはありません。幼少の頃、瀬戸内海沿岸にすむ親戚から送られてきたサザエが、トゲなしイメージを作り上げたのかも知れません。

瀬戸内海のサザエ（左）と島根県のサザエ（右）

この冬の特別展では、島根の水産業にスポットを当てる予定です。

魚屋さんでよく見かけるけれど、生きた姿はあまり見たことがなかったり、実は○○だったり・・・など、とっておきの新鮮な話題をたくさん紹介しますのでお楽しみに！

（中畑勝見）

表紙の生きもの　ツチガエル *Glandirana rugosa*

田んぼなどの水辺でよく見かけるカエルのひとつが、このツチガエルです。春から夏にかけて繁殖期を迎え、オスがしきりに鳴いています。鳴き声はニホンアマガエルの鳴き声を低くした感じで、さまざまなカエルの鳴き声の中でもよく響きます。

しかし、耳をすませて鳴き声に近寄っても、その姿を確認するのは大変です。こげ茶色の体色と体の表面にある小さなイボイボが保護色になって、水中ではほとんど姿が見えません。

ツチガエルは、このイボイボのために「イボガエル」ともよばれます。さわるとイヤな臭いのする粘液も出すため、あまり好かれていませんが、見慣れてくると割と愛嬌のある顔にも見えてくるかもしれませんよ。

（佐々木興）

田んぼの土と見分けがつきません

生きもの観察会報告　～「宍道湖生きもの探検隊！」編～

5月の生きもの観察会は、参加者のみなさんと宍道湖の探検に出かけました。まず、宍道湖について勉強をしてから、生きもの採集に挑戦しました。水底の石や泥を足で動かして、網の中に追い込みます。すると、ヌマチチブやシモフリシマハゼ、テナガエビ、ヤマトシジミなどが姿を見せてくれました。最後に、とれた生きものの解説を行いました。今回の経験を通して、宍道湖や生きものことに少しでも興味をもってもらえるとうれしいです。

（高橋由也）

ゴビウス生きもの観察会に参加しませんか？

8/25 日曜日 10:00～11:30　受付開始 8/11
なぜ光る？ウミホタルの発光実験

なぜ？どうやって？どんな光？観察や発光実験をしてウミホタルの光の不思議を調べてみよう！

11/24 日曜日 10:00～11:30　受付開始 11/10
オオサンショウウオの身体測定！

毎年おこなっているオオサンショウウオの身体測定。実際にふれる体験もできる身体測定に、参加してしてみよう！

9/8 日曜日 10:00～11:30　受付開始 8/25
ゴビウス小川の生きもの探検隊！

ゴビウス園内を流れる小川にはどんな生きものがいるのかな？探検隊になって、さがしに出かけてみよう！

12/15 日曜日 10:00～11:30　受付開始 12/1
貝殻アートに挑戦！

海岸にはさまざまな物が流れつくよ。その漂着物のひとつである貝殻を使って、ステキな貝殻アートをつくってみよう！

10/27 日曜日 10:00～11:30　受付開始 10/13
外来生物を観察してみよう！

“外来生物”についてどのくらい知っているかな？ゴビウス周辺にさがしに出かけて、観察してみよう！

定員 申込先着30名　**対象** どなたでも（小学生以下は保護者の参加も必要）

お問い合わせ お申し込みは　開催２週間前から電話にてお申し込みください。
TEL **0853-63-7100**

※定員になり次第締め切りとさせていただきます。
※各観察会についての詳細は各観察会チラシでご確認ください。
※観察会情報はホームページでもご覧いただけます。

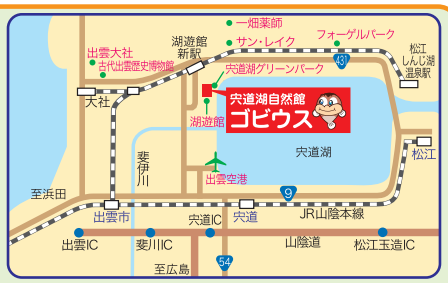
生きもの情報も発信中だよ！ http://www.gobius.jp/

夏休みは休まず開館

敬老の日・敬老週間
9月15日(日)～9月21日(土)まで65歳以上入館無料
ただし、9月17日(火)は休館日です。受付にて年齢の証明できるものの掲示が必要です。

ご来館案内

●入館料／大　　人…500円（400円）
　　小中高生…200円（160円）
　　※（　）内は団体20名様以上の料金
●年間パスポート／大　　人…1,400円
　　小中高生……500円
　　ご家族で同時にご購入いただくと２割引になります。
　　大人 1,120 円、小中高生 400 円。
　　※割引の適用は同居のご家族に限ります。他の割引との併用不可。
●開館時間／9:30～17:00（最終入館は16:30）
●休館日／火曜日、年末（12月28日～12月31日）
　　※火曜日が祝日の場合は、その翌平日が休館日となります。



●一畑電車湖遊館新駅より徒歩10分 ●出雲空港より車で10分
●山陰道宍道インターより車で15分

●駐車場／100台（無料・トイレ完備）

ゴビウスニュースレターしまねっ湖　No.65
発行日／2019年7月10日
発　行／島根県立宍道湖自然館ゴビウス（管理運営：ホシザキグリーン財団）
〒691-0076　島根県出雲市園町 1659-5
TEL 0853-63-7100　FAX 0853-63-7101
URL www.gobius.jp/　E-mail gobius@gobius.jp

■動物取扱業に関する表示
氏名または名称：公益財団法人ホシザキグリーン財団
事業所の名称：島根県立宍道湖自然館
動物取扱業の種別：展示
登録番号：第073102040号
登録年月日：2007年5月17日
登録有効期限：2022年5月16日
取扱責任者：中野浩史

古紙パルプ配合率80%再生紙を使用
本誌は地球環境に優しい植物油インキを使用しております。
VEGETABLE OIL INK
植物油インキは、大気汚染の原因となるVOC（揮発性有機溶剤）の削減および再生紙処理の優位性が高い成分です。